

1. 議論とは

個人活動 … 個人の能力を発揮できる

集団活動 … 個々の能力をベースに、促進的な相互交流→個人の能力以上の成果達成

【良くない議論】

- ☐ 単なる話し合い
- ☐ できる人だけ進んでしまう
- ☐ 参加しない人への不満がたまる

【良い議論】

- ☐ 他者の考え方や価値観から知識や考えの幅を広げる
- ☐ 分析・批判的思考を通して教養を鍛え上げる
- ☐ リーダーシップやチームワークが育まれる

2. 研究（Plan）における議論の流れ

拡張	調査	研究対象について、本やインターネットで調べる
	○拡張	調査結果から関連項目（アイデア）を書き出す
	○構造化（階層化）	関連項目（アイデア）をグループ分けし構造化する
	○選別	目的に沿うか否かを区別する
	○縮小（ミクロ化）	実現可能なものや身近な課題に絞る
整理	先行事例を調査する	研究対象に関する論文を調べ、リサーチクエスチョンを探す
	○仮説を立てる	リサーチクエスチョンに対する仮説を立てる
共有	○研究をデザインする	仮説実証の方法を検討する
	○研究計画を立てる	仮説実証の計画を立てる
	○チェックする	研究計画が適切であるか、他者の評価をもらう

3. 議論実習

良い議論の流れ

アイデアの _____ → アイデアの _____ → アイデアの _____

流れ)	拡張	・集団でブレインストーミングしながら、マインドマップを作成する。
	整理	・KJ法でアイデアを本質的に似ているもので構造化してから、クリティカルシンキングで実現可能でエビデンスの高いクラス企画を立案する。
	共有	・企画書を作成し、全体に説明する。

I. アイデアの拡張

■ マインドマップ

イギリスの著述家であるトニー・ブザンによって定式化され、ThinkBuzan社の登録商標となっている。アイデアを広げようとするテーマを中心の図形に書き込み、関連するアイデアを階層化した放射状の曲線で表現していくことで可視化、整理していく方法。



☐ アイデア拡張実習1 : 「高校生」から思いつく言葉をつなげてみよう。

☐ アイデア拡張実習2 (10分)

文化祭

■ ブレインストーミング

1941年、アメリカの広告代理店社長であったアレックス・オズボーンにより考案された、問題解決のために新しい発想を生み出すための会議方法。グループでテーマに沿った内容を1つの付箋に1つ書き込んでいく。ルールは、

- ①判断延期(他人の意見を批判しない) ②自由奔放(思いつきでOK)
- ③質より量(多角的に多くのアイデアを) ④結合改善(アイデアの借用・連想OK)。

阻害要因 ・思い込み「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」 オットー・フォン・ビスマルク

・問題解決→課題発見

「もしも人々に何が欲しいか尋ねたなら、彼らは『もっと速い馬が欲しい』と答えただろう。」 ヘンリー・フォード

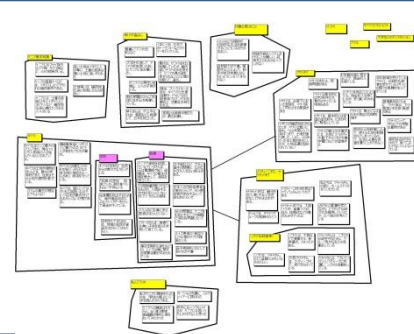
□ アイデア拡張実習3 (12分)

実習2のアイデア、ブレインストーミングで生まれた新たなアイデアをポストイットに書き込み、ホワイトボードノートに貼り付けながら、集団でマインドマップを作る。

II. アイデアの整理

■ KJ法

文化人類学者である川喜田次郎が開発した、ブレインストーミングで出たアイデアを収束するための技法。付箋の内容を本質的に似ている者同士まとめ、小グループを作り、グループ間の関係性を図示する方法



* 参考 高津高校文化祭部門

- (1)一般催し物(HR 教室や特別教室等で、展示や制作物の発表を行う。)
最大参加団体数 8クラス、クラブ、有志
- (2)講堂催し物(体育館ステージで劇や音楽を発表する。)
最大参加団体数 9クラス、4団体(クラブと有志団体)
- (3)中庭催し物(中庭を使って、パフォーマンスや作品を発表する。)
最大参加団体数 6クラス、クラブ、有志
- (4)模擬店(中庭で調理販売、HR 教室で市販食品販売、ピロティで野点を行う。)
最大参加団体数 中庭2クラス、教室4クラス、2クラブ

□ アイデア整理実習1 (10分)

ポストイットを部門や意義・目的ごとに KJ 法で整理し、アイデアを追加しながら一つのアイデアにまとめる。KJ 法(構造化)シートを利用する。

■ クリティカルシンキング

批判的思考と直訳されるが、「あら探し」や敵対的な態度ではない。明晰で、理性的で、偏見にとらわれず、証拠に基づいている思考のこと。

ルール

- 1)明晰に考える — あいまいさが無い 2)理性的に考える — 根拠ある理由がある
- 3)偏見にとらわれない — 当たり前を疑う 4)証拠に基づいて考える — 事実を問う

【質問者】問題の本質を理解して論理的根拠に基づいて、自分との相違点や矛盾点を問う。

【発言者】反論に対して冷静に聞き、適切であれば受け入れる。

■ ミクロ・ローカル化

アイデアを身近で扱いやすい内容に変え、実現可能なものにすることをミクロ・ローカル化という。アイデアの拡張時には制限をかけず、整理時に制限要因を考慮してブラッシュアップしていく。

「高津高校の文化祭企画」成立のための制限要因は以下の4点。

- 1)「文化祭規定」を遵守している。
- 2)「文化祭関連スケジュール」に進行が合う。
- 3)「予算」内に実現できる。(クラス人数×1,500 円)
- 4)「学校行事における人権に関する配慮事項」を遵守している。

■ エビデンス

「証拠」「裏付け」「科学的根拠」あるいは「形跡」といった意味で用いられる言葉。研究分野では、その研究例がどれくらいの科学的根拠があるかを示すエビデンスレベルという指標がある。今回の実習では、科学的根拠＝文化祭の目的、として考える。目的に沿いながら、「高津らしさ」や「新規性(オリジナリティ)」を高めるために、どのような工夫ができるだろう。

□ アイデア整理実習2 (15分)

- ①司会進行役、書記を決める。書記はクリティカルシンキングシートに議論をまとめる。
- ②「文化祭の目的」を議論する。
- ③②に沿う「クラス企画」について議論する。
- ④KJ 法で整理したアイデアから②・③・規定に沿うものを選び、実現可能性を上げる
- ⑤アイデアのエビデンスを向上させる。

□ アイデア整理実習3 (12分): 授業用企画書Aにまとめた内容を書き込んでいく。

III. アイデアの共有

■ 企画書

- ・自分の考えを他者に伝えるために、作成する。
- ・企画側の意図や考えを示す。
- ・聞き手が理解するのに労力がかからないよう、正確に文書化する。

□ アイデア共有実習1 (20分)

班を解体し、企画書をもとに、他班へアイデアをプレゼンテーションする。1 班の発表時間は1分。その後、質問対応を1分行う。

□ アイデア共有実習2 (20分)

他班の意見を共有し、改善やブラッシュアップして授業用企画書Bを仕上げる。